

# 飛耳長目

通巻172号 平成30年3月1日発行

「修身教授録」探求（第三百二十五回）

## 一 だらしなさ

森信三

はひ松のかげ深みつつなほ照れる

光寂しも入日のなごり

赤彦

これは赤彦が晩年高山に登ったときの一首ですが、高山の夕方の寂寥な感慨がよく表現せられていてと思います。夕陽がしだいに沈もうとしているので、一方にははひ松の蔭が暗く影をさしているが、同時にそこには夕陽の明るさが、まだ最後の光をとどめているというのでしよう。そしてそれら光と闇との対照を、高山の寂光の中に静観しているのです。

これはわたくし、かねがね思うていることですが、女性の生地というものは、必ずしも世間で普通に考えられているほどに、しまりの良い人ばかりでもなさそうに思うのですが、いかがでしょう。なるほど女は男子の前にあつては、割合に締りが良さそうに見えますが、ひと度女だけ一人置かれたと云うりますと、もちろん例外は色々多かるうと思いますが、必ずしも普通に男の人たちの考えているほどに、締りのよい人ばかりでもなさそうに思うのです。ではどうしてわたくしが、こうしたがまだ小学校の生徒の頃、ある女の

先生の処へ、校長先生からお使いにやられた事がありました。ところがその際その女の先生が何かの拍子に襖を開けられたところ、その押し入れの中には、はき古して真黒になった古足袋が、文字通り山のように積まれていて、その印象が現在の年齢になっても、未だに消えやらないのであります。

もちろんこれなどは、特殊の場合であつて、これを以つて全般を推すことの出来ないことは申すまでもないでしょう。しかしその女の先生は、幾人も女の先生の中では、決してだらしな方ではなかったことを考えますと、そこには考えさされるものがないとは言えないように思うのです。もちろんお年の若かったせいもありましたが、しかし何れかと申せば一番しやんとしたその人にして、尚かつその様であつたという事は、女の生地といふものが、必ずしも普通に考えられてい

るほどに、締りがあるとのみ言えないかと思われるのであります。そこで次のような事がいえるかと思ふのです。それは、女性が男子に比して一おう締りがあるらしく見えるのは、実は男子に対するたしなみの意識が働いている場合であつて、もし女だけの一人住いとなつたら、案外そのだらしなさが、生地のままに現われるのではないかということです。もちろん

ネット検索 森信三先生と修身教授録

これも実際には、色々例外の多いことでしょう。しかし少なくともあなた自身の方の反省としては、この点非常に大切な事ではないかと思うのであります。そもそも反省というものは、不公平な酷評と思われるようなコトバすら、これを甘受して受け容れ、やがてはそれを消化することによって、わたしたちの心の内容も、しだいに豊かになるものと言えましょう。ですから以上わたしの申ししたことが、果たしてどの程度に当たっているか否かは、実はわたくし自身にもよくは分らないのであります。唯わたくしには、何とはなしにそういう気がしてならないのです。しかしその当否は別問題として、とにかくあなた方としては、反省の一資料として深く忘れないで頂けたらと思うわけです。

それにしても女の人は、男子は大ざっぱであるが、自分たちは丹念に細やかであると思うているようでありませう。もちろんそういう場合の少なくともいことは、わたくしとても十分承知しているわけですが、同時にまた必ずしもそうとのみ言えない場合もあるようであります。否わたくしの考えでは、あなた方のうち将来結婚後ご主人から、女としてのあなた方よりも、掃除や整頓などについてやかましくいわれる人が、何割かはあろうと思うのであ

ります。それを男とさえいえば、みんな女より大ざっぱなものと、勝手に一人決めをしていますが、それこそ大変なことになりましょう。現に手近かな証拠を一つ申してみますと、この間も天師の生徒の手に成った「修身教授録」の事細かな記述に対して、あなた方も意外なほどに驚かれたようであります。このことは現にあなた方の中にも、率直にその感じを書いた人もありましたが、実際ああいう事細かな丹念さというものは、女の人の中からではかえって出にくいともいえましょう。実はい多くの女の人は、男は自分たち女より大ざっぱなものと、頭から決めて掛っているようですが、しかし事実はかえって反対の場合が少なくないと思っております。少なくともある種の点に関しては、男子の方がはるかに丹念に、事細かにやるものであります。この点はあなた方も今後よほど注意していかせんと、将来、とくに結婚生活に入ってから、色々間違いが起きることでしょう。実さい現在のような女子教育の有様では、結婚後わが子が病氣一つしても、その手当てはご主人に遠く及ばない奥さんが少なくないようでありませう。育児とか子どもの病氣の手当てなどは、申すまでもなく母親としての最大の責任でありながら、終日外の勤めで疲れはてて帰ったご主人の手を煩わ

さねはならぬというようでは、何といつても今日の女子教育には、根本の処に何か誤りがあるという他ないでしょう。かくして家庭内の問題の多くは、結局は主婦たるもののだらしなさ、その原因という場合も少なくはないと思っております。

おそらく将来あなた方の結婚生活に、おいても、あなた方よりご主人の方が、かえって万事に丹念で細やかなという場合も少なくはないでしょう。少なくともある種の事柄については、あなたの方が、男子としてのご主人よりだらしなないという事があるかと思っております。いつも申すことですが、今日子どもの躰けというところが、一般に世の親たちの心からしだいに薄らぎつつあるようですが、しかし人間としての土台は、何といつても家庭における躰けの他ないのであります。この点とくに女の子は、将来家風や習慣など、どんなに違う家へ嫁ぐかも知れない身です。から、女の児の躰けには、とくに両親の心遣いが大切だと思えます。ところが近頃では、この「女の子だから」という自覚に基づく躰けの厳しさが、しだいに薄らぎつつあるようでありませう。ところが男子の方は、寄宿舎とか、ある下宿とか、その他職務上の勤務の關係上、いかに良家の子弟といえども、ある程度世間の風波にもまれている処

があるといえましょう。そこで躰けのない家庭で、わがまま気ままに育てられて、結婚の日まで、世間の苦労というものを知らない現在の娘さんたちの中には、男子にかなわない点があるのは、むしろ当然と思うのであります。

今ご参考までに、女性のだらしなさの二、三を申してみますと、まず食事の済んだ後すぐに跡片づけをしないだらしなさ、あるいは朝起きると同時に寝衣を着かえて、夜具を始末しないだらしなさ、また夜具の畳み方の不揃いなのが一向気にならぬだらしなさ、あるいはまた便所の草履を不揃いに脱いで平気であるだらしなさとか、着物を畳の上に脱ぎっ放しにしておくだらしなさ、また新聞を読み放しにして、後始末をしないだらしなさとか、襖を立てる場合立て切らないで一、二寸開けたままで平気であるだらしなさとか、また着物や夜具を踏んで平気であるだらしなさ、また葉書手紙の類の置場所を決めないだらしなさ、石けんを使つても水も切らずにそのままにして後をグチャグチャにさせて平気であるだらしなさとか、さらに甚だしきは、男の下駄をつっかけて平気であるだらしなさとか等々、かような事を一々挙げていたら実に際限のないことでしょう。男子には自分の下駄が左右反対にして出

されても、気になるという人が、少なくとも半数前後はあると申してよいでしょう。

これらの事を考えて来ますと、女と男といずれが果たして真に締りがあり、いずれが果たしてだらしないかは、容易に分つたものではありません。近ごろの若い人々の家庭では、あるいは女のだらしない家の方が多いかも知れません。それでもそれを素直にご主人の注意によつて改めて行けばまだしも、私の強い近ごろのわかい女の人たちは、素直にご主人の言を聞いて改めようとしめない人も少なくないようです。元来かような実行上の事柄は、一度そのだらしなさを他人から指摘されたら、全身に冷水を浴びたように恥じ入つて、二度と再びこのような誤りはずまいと意地にも決心するのが本来であるのに、近ごろの若い女の人々は、意地の用いどころを間違えて、かような事を指摘するご主人に対して、とかく口答えをしたり、甚だしきはふくれたりなどしているようです。そこでよほどのご主人でないといつ、ついでついで、本当ではないと知りつつ、ついでついで、一生そのままで、それをよい事にして、押し通すことにもなるというわけであり、押し通すところもこうした母親に育てられた娘は、またそれを当然のことと

して、結婚後もまたその調子でやりますから、かくして全く尽きる期がないともいえましよう。そもそも女性というものは、男子の気付かぬ処まで細々と思ひやつて、向うに知られぬように、そつと直して置くといふのでなくて、真の女甲斐がないといふものでしょう。然るにそれが、男子の下駄一つ満足に揃えられないで、左右が入れ違つても、平気であるといふ程度の大ざっぱさでは、まったく問題にならないわけでありませぬ。これでは家庭というものは、どうしてもルーズにならざるを得ないでしょう。それというのも、畢竟するに女の人々が、自分をそれほどだらしないとも気付かずにいるところ、かような誤りの生ずる根本原因があるといふべきでしょう。

そこで現在のあなた方としては、さし当たつてまず身の廻りの整頓を正しくすると申すまでもありませんが、さらに一歩をすすめて、時にはお父さんの机の上なども、ちよつと整頓して上げるとか、またもちろん忙しいお母さんのお勝手のお手伝が出来るようになってなければ、女甲斐がないといふものでしょう。あなた方のような若い娘さんの修養は、結婚後主婦として妻として、また母として大切な心掛けを、娘時代の現在、わが生活の上に実現するには、一たいどういふ事から始めたらい

か、と工夫することが大事だと思いま  
す。かくして初めて真に「工夫」であ  
り、そして初めて修養への具体的な一  
歩が踏み出されるわけでありませう。結  
婚後の心得をいかに感心して聞いてみ  
たとて、それを現在の自分の生活の上  
に生かすには、どうしたらよいかとい  
う事に思い及ばないで、ただ将来結婚  
したら自分もそうしようと考えている  
程度では、何年間修身の話聞いたと  
て、真に身につく生きた知恵とはなら  
ないでしょう。

（栗山知恵子紀）

### 考え方（微言）

森信三

○近ごろ私は、自分の物の考え方には終  
末論的などころのあるということが分つ  
て来た。ここに終末論的というのは、物  
事をすべて、その最終の結末状態におい  
て見ようとする考え方である。

○世界の思想上、終末論的な考え方  
最も顕著な実例は、キリスト教であり、  
ついてはその裏返しとしてマルクス  
主義にも、明らかにこの終末論的なもの  
があるといつてよい。

○私の場合の物の考え方が終末論的であ  
るといふのは、例えば現在をもって、世  
界史の二等分線だとする見方などがその  
一例である。だれも世界史の最終点を見  
た者はなく、かくいう私自身も同様であ  
る。

○私のこのような終末論的な物の考え方  
は、思想としての長短はとにかくとして、  
実生活に関する点では、甚だ不適當など  
ころのあることが近ごろになって分つて  
きた。

○というのには、常に物事をかの最終の終  
末において見ようとするこの考え方は、  
現実生活の上には頗る不適當な場合が多  
いのである。

○現実界のことは、丁度瀬戸内海を舟で  
ゆくようなもので、行きつく先は島で、  
もうそれから先へは行けぬと思われてい  
ても、いよいよその地点まで行ってみる  
と、意外な方向に途が開かれているよう  
なものである。

○つまり現実界というものは、絶対的な  
行きづまりということではなく、もう駄  
目かと思われる場合にも、また何とか新  
たな途が開かれる場合が多いのである。

○然るに終末論的な思想傾向をもつ場合  
には、とかく終末点を固定して考える処  
に、ともすれば悲觀的となり、転変する  
現在の動きに対して、次から次へと手を  
打ってゆくということが不得手となりが  
ちである。

○このことは結局私の性格が、非実践型  
な人間だということであるようである。  
私は最近この点を骨身に沁みて痛感して  
いる。

○実に実践型の人々は、物事を決して終  
末論的には考えない。何となれば、実践  
型の人間は、歩一步現実の地上を歩いて  
進んでゆく人間だから。

○随って実践型の人間には固定概念とい  
うものがない。固定概念を常に打破って、  
その時々に対処してゆくところに実践家  
型の特徴がある。

○然るに私のように、常に最後の結論を  
予想ししかもこれを固定的に考えていて  
は、現在への対処ということが出来なく  
なり、ここに私の非実践的性格の基本的  
なものがあると思う。

○私は最近ようやくこの点に関する自覚  
が得られるようになってきた。それは私  
にとつて辛くはあるけれど、実に大きな  
収穫といつてよいと思う。

（「開頭」昭和26年7月号 通巻54号）

### あとがきに替えて

このように女性の認識に関して、細かい観察が  
できていないと、こんなお話は出来るものではな  
い。男の私が聞いても感心な眼力であり、かかる  
お話を毎時間「修身科」で聞く若い女性も納得の  
講義であつたと思う。■「考え方」についても  
ご自分の立ち位置がよくおわかりで、他の考え方  
も知り尽くしておられることにより、こんな論考  
もたやすく生まれる。脱帽の外なし。（27日二繁）

〒633-0003  
桜井市朝倉台東2-538-89  
電話0744-4513422  
Email:hij3@ken.jp  
http://web1.ken.jp/syushin